

脳卒中

脳梗塞・脳出血・くも膜下出血をまとめて脳卒中と呼びます。脳梗塞と脳出血は典型的な症状として、片側の手足や顔面に力が入らなくなる、ろれつが回らないなどがあります。どちらも一刻も早い処置が必要です。

くも膜下出血は、過去に経験が無い激しい頭痛が代表的な症状です。発症後は安静を保ちつつ早めの受診が必要です。すぐに通報をし、救急隊の到着を待ちましょう。

心筋梗塞

心臓に血液を供給するための血管が、何らかの原因でふさがった結果、心臓の筋肉（心筋）が壊死してしまいう病気です。心筋は一度死んでしまうと再生しません。一般的に発症後24時間以内（約半数が1時間以内）に死亡することが多いため、できる限り早く治療を開始することが重要です。

典型的な症状として、胸痛があります。胸から離れた部分の痛み（左肩痛や顎痛など）が出ることもあり、注意が必要です。

救急車を呼んだ時の応急処置

この場で全てを伝えることは難しいので、詳しくは消防署で開催している救命講習の受講をおすすめします。

心肺蘇生

具合の悪い人がすでに心肺停止（心臓も呼吸も止まっている）状態だった場合は、心肺蘇生法（胸骨圧迫の実施とAEDの使用）を行います。



胸骨圧迫とは、俗にいう心臓マッサージのことです。手のひらの固い部分を胸の真ん中に当てて約5cm押し、元の位置まで戻すことを繰り返します。やり方が分からない場合でも、通報時に指令センター員が丁寧に教えますので、落ち着いて指示に従ってください。

気道異物除去

目の前の人のがのど（気道）に物を詰まらせていた場合、すぐに異物を取り除く必要があります。まだ意識がある場合は、咳をしてもらうことが一番です。そのうえで、成人に対しては背部叩打法（背中を叩く方法）と腹部突き上げ法（背中側から手を回し、お腹を突き上げて圧迫する方法）を繰り返し行ってください。



止血

体内に流れている血液が大量に失われると、人は生命の危機に直面します。止血方法は単純で、傷口に清潔なガーゼやタオルなどを当てて、力強く圧迫する直接圧迫止血法を行ってもらいます。



感染症の可能性がありますので、手袋やビニール袋などを使って血液に直接触れない配慮が必要です。

心筋梗塞の症状

痛みの表現	重苦しい
	締め付けられる
	圧迫される
その他の症状	焼けつくような感じ
	冷や汗
	吐き気・嘔吐
	強い気分不良
	息苦しさ

終わりに

救急車を呼ぶか迷った場合、成人は「#7119」、小児は「#8000」という相談ダイヤルがあります。

問い合わせ先

春日・大野城・那珂川消防組合
消防本部警防課救急情報係
☎(584)1191



ホームページ



YouTube



Instagram

す。ぜひ、活用してください。消防本部のホームページやSNSでも随時情報を発信していますので、この機会に見てみてください。